

奈麻余美乃	甲斐乃國	打縁流	駿河能國与	己知其智乃	國之三中従
なまよみの	甲斐の國	打ち寄する	駿河の國と	こちごちの	國のみ中ゆ
なまよみの	かひのくに	うちよする	するがのくにと	こちごちの	くにのみなかゆ
(枕詞)	甲斐の國と	(枕詞)	駿河の國と	あちこちの	國の真ん中から
出立有	不盡能高嶺者	天雲毛	伊去波伐加利	飛鳥母	翔毛不上
出で立てる	不盡の高嶺は	天雲も	い行きはばかり	飛ぶ鳥も	飛びも上がらず
いでたてる	ふじのたかねは	あまくもも	いいきはばかり	とぶよりも	とびもあがらず
そびえたつ	富士の高嶺は	天雲も	行きはばかり	飛ぶ鳥も	飛び上がらず
燎火乎	雪以滅	落雪乎	火用消通都	言不得	名不知
燃ゆる火を	雪もち消ち	降る雪を	火もち消ちつつ	言ひも得ず	名付けも知らず
もゆるひを	ゆきもちけち	ふるゆきを	ひもちけちつつ	いひもえず	なつけもしらす
燃える火を	雪で消し	降る雪を	火で消しつつも	何も言えず	名づけもできず
靈母	座神香聞	石花海跡	名付而有毛	彼山之	堤有海曾
靈しくも	座す神かも	石花海と	名付けてあるも	その山の	つつめる海ぞ
くすしくも	いますかみかも	せのうみと	なづけてあるも	そのやまの	つつめるうみぞ
くすしくも	おわす神かも	石花海と	名づけた海も	その山が	囲んだ海だぞ
不盡河跡	人乃渡毛	其山之	水乃當焉	日本之	山跡國乃
不盡河と	人の渡るも	その山の	水の激ちぞ	日の本の	山跡の國の
ふじがはと	ひとのわたるも	そのやまの	みずのたぎちぞ	ひのもとの	やまとのくにの
富士川という	人の渡る川も	その山の	水の流れだぞ	日の本の	大和の國の
鎮十方	座祇可間	寶十方	成有山可聞	駿河有	不盡能高峯者
鎮めとも	います神かも	寶とも	なれる山かも	駿河なる	不盡の高峯は
しづめとも	いますかみかも	たからとも	なれるやまかも	するがなる	ふじのたかねは
鎮めとして	おわす神だぞ	宝とも	なれる山だぞ	駿河なる	富士の高嶺は
雖見不飽香聞					
見れど飽かぬかも					万葉集
みれどあかぬかも					卷三 319
いくら見ても見飽きることがない					高橋虫磨
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/					